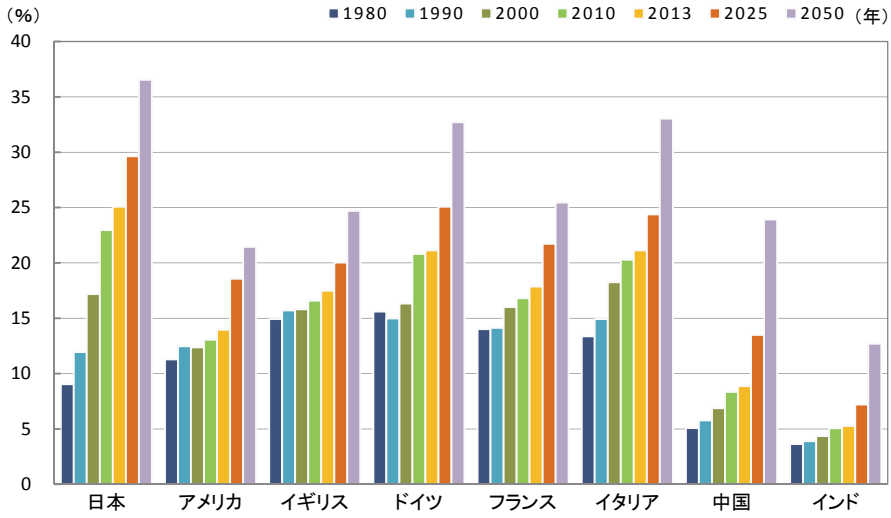
2-3　老年人口比率（65歳以上人口）



▸▸ グラフの具体的な数値及び資料出所については，「第2-5表　老年人口(65歳以上人口)」(p.59)を参照。

出生率の低下と平均寿命の伸長により，高齢化が進む諸国が増加傾向にある。2005年から2050年の間の世界人口の増加の半数は60歳以上人口の増加によるもので，これと対照的に，15歳未満人口は著しく減少する見通しである。2013年時点で12%であった60歳以上人口は，2050年には21%に達すると予測されている。とりわけ先進地域における高齢化の進展が顕著で，現時点の23%から2050年には32%へと大幅に増加する一方で，15歳未満人口は現時点の16.5%から2050年には16.3%となり，高齢者のほぼ半分となる。とりわけ日本の高齢化は急速で，2010年，2025年，2050年のいずれの推計でも欧米先進諸国を上回っており，極めて老年人口の割合の高い国になると予測されている。

他方，現在は比較的出生率が高い発展途上地域でも，出生率の低下と平均寿命の伸長により，高齢化の進展は急速であると予測されており，2011年時点で9%に過ぎない老年人口比率は，2050年には20%に達する見通しである。上のグラフからも，中国やインドの高齢化が先進諸国より急速であることがわかる。